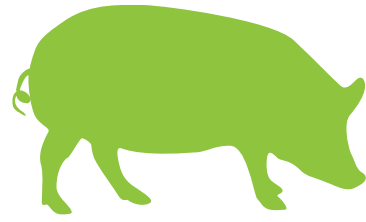


# 豚肉

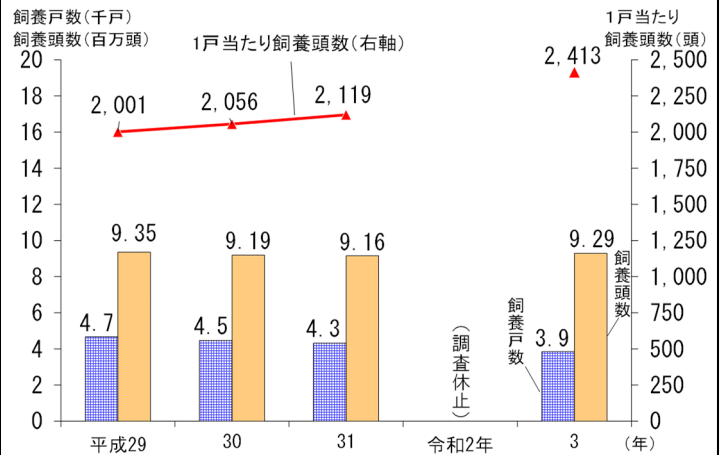


## ◆飼養動向

3年2月現在の1戸当たり飼養頭数、平成31年比13.9%増

豚の飼養戸数は減少傾向で推移しており、令和3年は、3850戸（平成31年比10.9%減）と平成31年からかなりの程度減少した（図1）。一方、総飼養頭数は、近年おおむね減少傾向にあったものの、令和3年は929万頭（同1.5%増）と平成31年からわずかに増加した。1戸当たり飼養頭数は、31年から293.6頭増加して2413頭（同13.9%増）となった。また、令和3年の子取り用雌豚の1戸当たりの飼養頭数も24.2頭増の270.8頭（同9.8%増）となった。小規模生産者を中心として飼養戸数が減少したものの、1戸当たり飼養頭数は増加し大規模化が進行している。

図1 豚の飼養戸数および飼養頭数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」  
注1：各年2月1日現在。  
注2：令和2年は農林業センサス実施年のためデータなし。

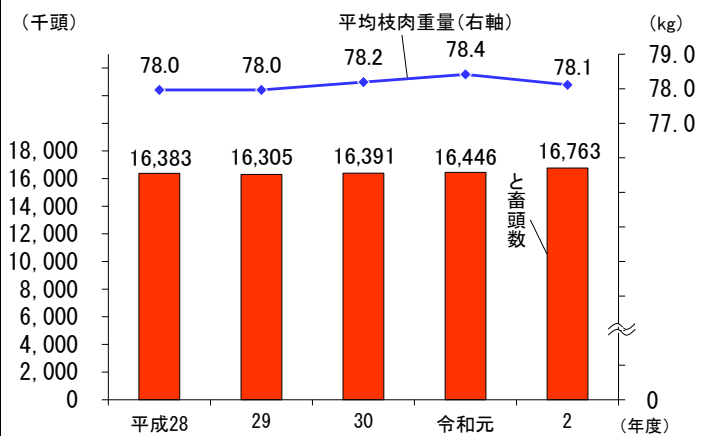
## ◆生産

2年度の生産量、前年度比1.5%増

豚のと畜頭数は、平成29年度に前年の夏場の猛暑による繁殖成績の低下などで減少したものの、近年はおおむね増加傾向で推移している。令和2年度は、1676万3098頭（前年度比1.9%増）と前年度をわずかに上回った（図2）。

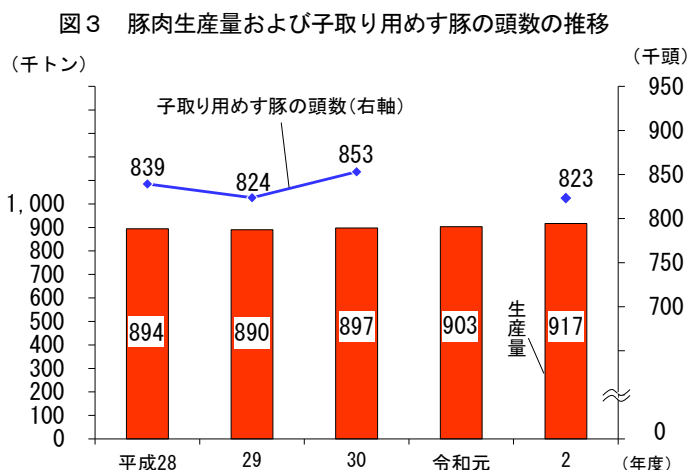
また、同年度の1頭当たりの平均枝肉重量は、78.1キログラムと前年度を0.3キログラム下回った。

図2 豚のと畜頭数および平均枝肉重量の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」  
注：平均枝肉重量は全国平均。

生産量については、夏場の暑さによる繁殖成績の低下などから出荷頭数が減少した平成29年度を除き、畜産クラスター事業などの取り組みなどにより、おおむね増加傾向で推移している。令和2年度は、出荷頭数の増加などから91万6671トン（同1.5%増）と前年度をわずかに上回った（図3）。



資料：農林水産省「畜産統計」、「食肉流通統計」  
 注1：生産量は、部分肉ベース。  
 注2：子取り用めす豚の頭数は、各年度2月1日現在。令和元年度は2020年農林業センサス実施年のためデータなし。

## ◆ 輸入

### 2年度の豚肉輸入量、前年度比7.3%減

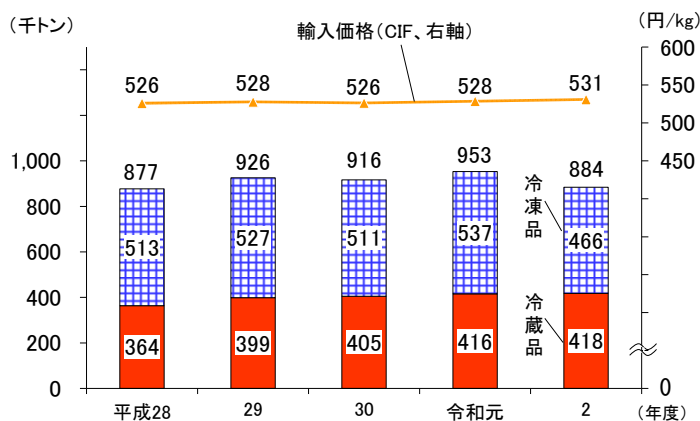
#### 豚肉

豚肉の輸入量については、冷蔵品は、国内の好調な需要などから増加傾向で推移している。冷凍品は、EU諸国からの輸入量の増加や、カットなど技術面の向上によりメキシコ産などの輸入量が増えたこともあり、令和元年度までは、6年連続で増加していた（図4）。

品は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響による業務用需要の減少などにより、46万5703トン（同13.3%減）と前年度をかなり大きく下回った。

2年度の国別輸入量は、米国産が25万265トン（同0.4%減）、カナダ産が23万5430トン（同0.3%減）、スペイン産が9万8995トン（同19.4%減）、デンマーク産が7万4269トン（同27.5%減）と前年度から減少した一方、メキシコ産は10万4572トン（同0.8%増）と前年度から増加した（図5）。

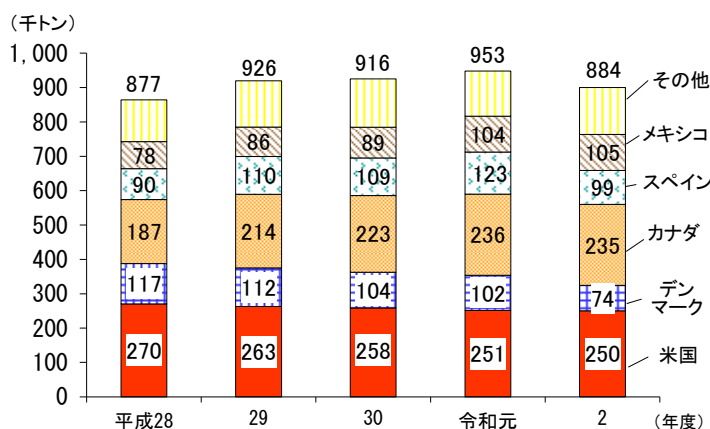
図4 豚肉の輸入量および輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」  
 注1：部分肉ベース。  
 注2：合計にはくず肉を含む。

2年度は、88万3985トン（前年度比7.3%減）と前年度をかなりの程度下回った。このうち、冷蔵品は好調な需要を背景に、41万8240トン（同0.6%増）と前年度をわずかに上回ったが、冷凍

図5 豚肉の国別輸入量の推移

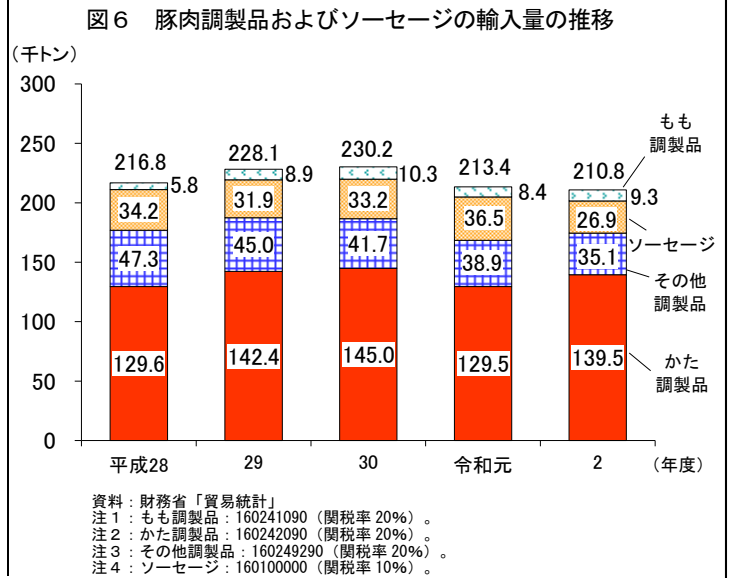


資料：財務省「貿易統計」  
 注1：部分肉ベース。  
 注2：くず肉を含む。

## 豚肉調製品・ソーセージ

豚肉調製品やソーセージの輸入量については、底堅い需要を背景とし、現地相場の変動に伴う増減を繰り返しながらもおおむね増加傾向で推移している。

令和2年度は、もも調製品・かた調製品の輸入量は前年度を上回ったものの、主要輸入先の豚肉相場が、中国におけるアフリカ豚熱発生に伴う輸入需要の増加の影響により上昇していたことなどから、その他調製品の輸入量が減少し、合計では21万810トン（前年度比1.2%減）と前年度をわずかに下回った（図6）。



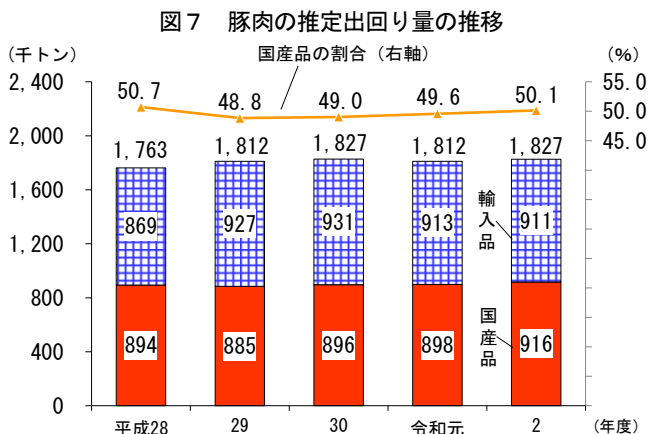
## 消費

2年度の推定出回り量は前年度比0.9%増、家計消費量は同8.8%増

### 推定出回り量

豚肉の推定出回り量は、近年の好調な豚肉消費を背景に増加傾向で推移している。平成28年度は牛肉需給の引き締めを受け、豚肉の需要が増加し、その後も肉ブームなどを背景におおむね増加傾向で推移している。

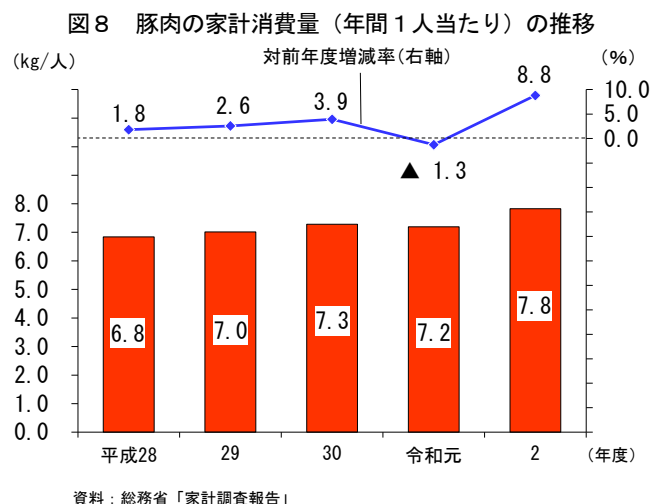
令和2年度は、国産品は91万6171トン（前年度比2.0%増）と前年度をわずかに上回り、輸入品は91万1180トン（同0.2%減）と前年度並みとなった（図7）。この結果、全体では182万7351トン（同0.9%増）と前年度をわずかに上回った。なお、合計に占める国産品の割合は50.1%（同0.5ポイント増）となり、3年連続で前年度を上回った。



資料：農畜産業振興機構推計  
 注：部分肉ベース。

### 家計消費

豚肉消費の約5割を占める家計消費について、年間1人当たりの豚肉の家計消費量を見ると、令和元年度においては一時的な減少があったものの、家庭における好調な豚肉需要を背景におおむね増加傾向で推移している。2年度は、COVID-19の影響により巣ごもり需要が旺盛となったことから、年間1人当たり7.8キログラム（前年度比8.8%増）と前年度をかなりの程度上回った（図8）。



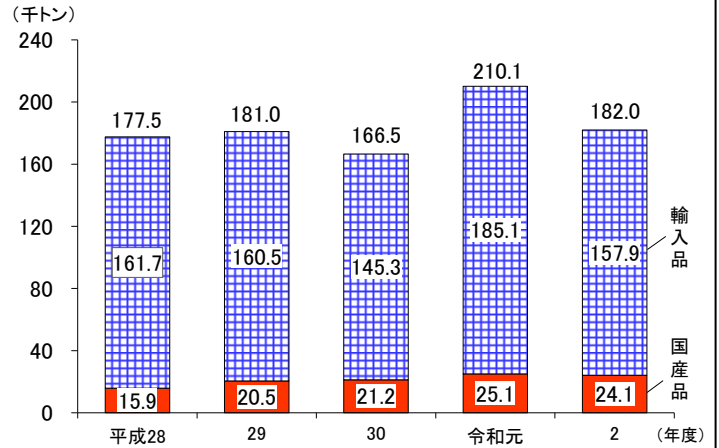
◆在庫

2年度の推定期末在庫量、前年度比13.4%減

豚肉の推定期末在庫量については、約9割を輸入品が占めており、そのうち9割強を冷凍品が占めている。このことから、推定期末在庫は輸入量や生産量の影響を受け、増減を繰り返しながら推移している。

令和2年度は、国産品はCOVID-19の影響により巣ごもり需要が旺盛となったことにより、2万4104トン(前年度比3.8%減)と前年度をやや下回った(図9)。輸入品は、COVID-19の影響による業務用需要の減少などにより、15万7880トン(同14.7%減)と、前年度をかなり大きく下回った。この結果、合計では18万1984トン(同13.4%減)と前年度をかなり大きく下回った。

図9 豚肉の推定期末在庫量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ  
注1：部分肉ベース。  
注2：四捨五入の関係で、合計値は必ずしも一致しない。

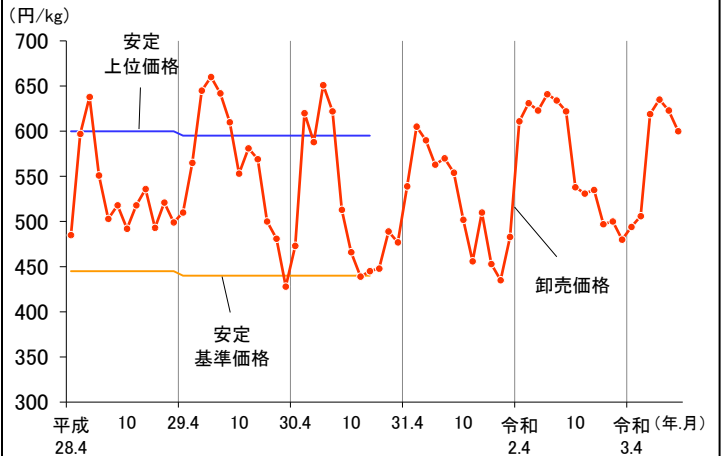
◆枝肉卸売価格

2年度の枝肉卸売価格、9.3%高

豚枝肉卸売価格(東京、極上・上加重平均)は、出荷頭数が少なくなる春から夏にかけて上昇基調で推移し、出荷頭数の増加する秋ごろに低下する傾向にある。

令和元年度は、記録的な暖冬の影響で供給量が増加し価格が低下していたが、2年度は、COVID-19の影響による巣ごもり需要が旺盛となり、価格は例年より高い水準で推移した。この結果、年度平均では1キログラム当たり570円(前年度比9.3%高)となった(図10)。

図10 豚枝肉の卸売価格(東京)の推移

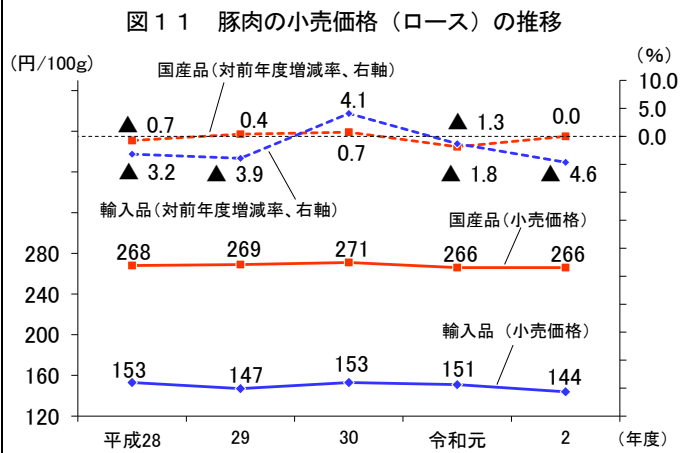


資料：農林水産省「食肉流通統計」  
注1：卸売価格は、極上と上の加重平均。  
注2：消費税を含む。  
注3：30年度安定価格については、平成30年12月29日まで適用。

## ◆小売価格

### 2年度の小売価格、国産品は前年度並み、輸入品は低下

豚肉の小売価格（ロース）について、令和2年度は、国産品は、生産量は増加したものの、100グラム当たり266円（前年度同）と前年度並みとなった（図11）。輸入品は、国内の輸入品在庫が高水準で推移していたことなどから、同144円（前年度比4.6%安）と前年度をやや下回った。



資料：農畜産業振興機構調べ  
注：消費税を含む。